

健康のひろば

地元医師がアドバイス

-9-

最近、微熱のほ
かせぎやたんも出
ます。高齢者の結
核患者が増えてい
ること、心配
です。

(下川・農業、七
十六歳)

☆

日本の結核患者率
は曲折があるものの
戦後順調に低下して
おります。若年層の
低下が著しいために
七十歳以上の高齢者
における低下は緩や
かで、結果として結
核患者に占める高齢
者の割合は年々高ま
り二〇〇二年の新規
結核患者に占める七
十歳以上の割合は四
一・五%となってい
ます。

結核罹患率低下速

度が高齢者で特に遅
くなる理由は①人口
が高齢化している②
若年者と比べて高齢
者の結核既感染率が

高い(二〇〇〇年の
統計で二十歳一・

八%、七十歳で七

二・八%)③高齢者

では発病の危険因子
となる各種基礎疾患
(後述)の有病率が高
い、が考えられま
す。

一方、塗抹陽性肺

結核患者数はこの二
十五年間ほぼ横ばい
で低下しています
(図1)。これを年齢
層別にみると、最近
二十年間で五十歳以
上の割合が五〇%台

に、六十歳以上では

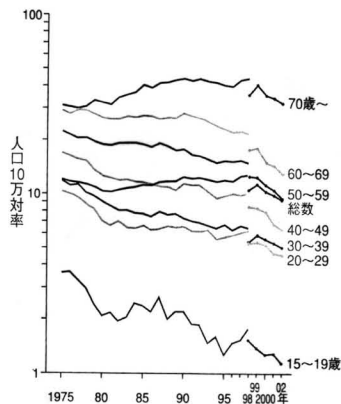
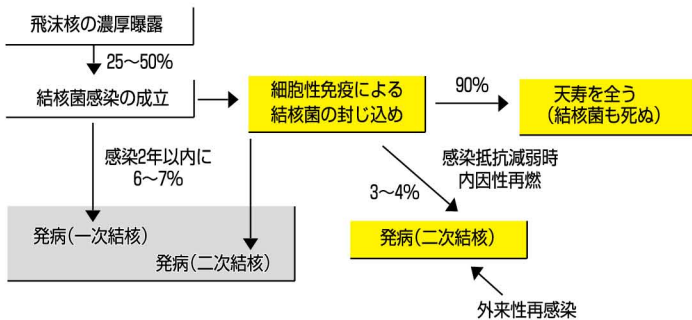


図1 塗抹陽性結核罹患率の推移
(結核の統計2003、結核予防会2003)



喀痰塗抹陽性者と濃厚接触したヒト(例えば同居家族)の20~50%に感染が成立する。感染者の90%は生涯発病せず終わる。感染者の6~7%は感染2年以内に発病(初感染発病)し、3~4%は年余を経て感染抵抗力が低下した時(たとえば糖尿病になる、癌になる、高齢になる等)に発病する(内因性再燃)。

図2 ヒト結核感染・発病の基本
(「高齢者結核」医療ジャーナル2004)

増える高齢者結核患者!

四五%から六〇%程
度に増加していま
す。

この原因は結核患

者率の高かった戦後
の影響で、現在の高
齢者では結核菌を保
有している人が多
く、既感染者の抵抗
力が低下している時
に、いわゆる二次感
染結核を発病するこ

とになります(図
2)。

先に述べた結核患
者の基礎疾患として
は、糖尿病、肝障害、
悪性腫瘍、胃切除、
じん肺、腎障害など
が挙げられます。

こうした疾患を持

ち合わせていると結
核の発生頻度が増加
します。高齢者結核
患者の特徴として自
覚症状に乏しいとき
れ、実際、全身倦怠、
体重減少などの全身

治療については年
齢に関係なく標準治
療に準拠しますが、
高齢者の場合、結核
治療薬による副作用

の出現頻度が高いこ
とも知っておく必要
があります。ご質問
の方の場合、様々な
疾患が考えられます
ので病医院で検査を
お受け下さい。



(医療法人社団岡崎
内科院長・岡崎望)